

2021年7月7日

日本プロテオーム学会（2021年～2023年理事）

2021年 第二回理事会 議事録

開催日時：2021年7月7日(水) 16:00～19:00

会場：Zoom 会議

出席者(50音順, 敬称略): 足達俊吾, 荒川憲昭, 荒木令江, 岩崎未央, 奥田修二郎, 大槻純男, 小田吉哉, 川上隆雄, 川島祐介, 河野信, 川村猛, 紀藤圭治, 木下英司, 小迫英尊, 小寺義男, 小林大樹, 近藤格, 杉山直幸, 高尾敏文, 武森信暁, 田中恒平, 肥後大輔, 増田豪, 若林真樹

石濱泰(前期理事)

欠席者(50音順, 敬称略): 堂前直

1. 会長挨拶(小寺)

日本プロテオーム学会の満足度、プレゼンスの向上を目指す。HUPO および AOHUPO など関連国際学会への積極的な参加を目指す。

【報告事項】

1. 会員状況(川島)

(1) 会員数 (2021年6月13日現在)

種別	会員数
個人会員	個人会員 545 名 (個人会員:438 名 ^{*1} , 個人会員(法人登録):107 名) (昨年:567 名, 一昨年:619 名, 本年度新規入会者: 16 名)
学生会員	298 名 (154 名 ^{*2}) (昨年:287 名, 一昨年:284 名, 本年度新規入会者:16 名)
法人会員	13 社 (昨年 14 社, 一昨年 14 社)
合計	843 名+13 社 (昨年:854 名+14 社)

※1 2018-2020 年度会費未払い者 449 名を除く

※2 メール不達者除外

● 学生会員から個人会員への変更については、学会側でしか行えないため、ご本人に連絡していただく必要あり。学会通信で依頼が必要との意見が出された。

2. JPrOS2021 大会(小迫)

オンライン開催であるため、大幅な黒字が確実。ランチョンセミナーなどについては大幅な割引で行っている。スポンサードセミナーも開催される。実行委員の方の素晴らしい協力のもと、準備が進んでいる。要旨集については紙媒体を利用しないなどシンプル化をした。現在開催アドレスが別となっている総会、受賞講演を同一の ZOOM アドレスで行う方が良いのではないかと持ち越し議題とすることとなった。

3. JPrOS2022 大会(小寺)

審議事項2の項目で議論を行った。

4. HUPO, AOHUPO 活動報告(小寺, 近藤)

(1) HUPO 関連(小寺)

- ・JPrOS 会員の方についてアジア枠からの理事推薦を行う。HUPO 会員になって選挙に参加していただき、推薦者の当選を目指したい。
- ・HUPO Reconnect 2021 (November 15-19, Stockholm, Sweden)が行われるので、改めて周知する。

(2) AOHUPO 関連

- ・HUPO-Early Career Researcher (HUPO-ECR) 候補の推薦(AO region) (石濱)
執行部に若い人の意見を入れるため、若者をリクルートしている。AOHUPO への推薦依頼があり、推薦を出した。京都大学の岩崎さんが選挙の結果 HUPO-ECR に選ばれた。
- ・10th AOHUPO: June 30-July 2 (Busan, Korea) (石濱, 近藤)
On site, online のハイブリッドで行われた。運営には問題も多数あったが、無事終えられた。参加者は過去最高の 650 人以上(日本からも 49 名という多数の参加)であった。AOHUPO_2023 年大会の場所は未決定。
- ・AOHUPO 報告(近藤)
研究レベルも高く、研究の拡がりもあり盛り上がっている印象。座長をしたセッションでも 100 名以上の参加があり、盛況。韓国とは地理的にも近いため今後も連携を進める。
- ・AOHUPO presentation award(近藤)
若手の方に海外とのつながりを持つために、10 名の応募があり採択した。若手のキャリアのためにも今後もこのような活動を積極的に進める。
- ・その他(小寺)
AOHUPO, HUPO の JPrOS からの参加者が減っており、少し遠くなっている気がする。JPrOS は HUPO の日本側の受け入れ機関でもあるので、AOHUPO, HUPO への参加は学会全体で進めていきたい。日本のアクティビティ(JPOST, JPDM を含む)を後押しするためにも重要。

5. JPrOS イニシアチブ(奥田, 石濱)

(1) Journal of Proteome Data and Methods (JPDM)について

- ・JPDM(データジャーナル)について申請していた、科研費研究成果公開促進費が採択され、学会に対して令和3年度分として活動費 390 万円が付与された。予算計画、予算執行、調達について、理事会または会長の承認が必要。jPOST 投稿者には、是非 JPDM にも投稿をしていただきたい。現在投稿中の論文として 8 報、そのうち海外の先生に書いていただいた総説が1報加わった。編集員に JPrOS 会員が加わっていただくことなど役割分担を望む。

(2) Japan Proteome Standard Repository/Database (jPOST)について

- ・NBDC 予算があと 2 年続く、その後(2023 年 4 月～)の予算申請には、実際のデータ利用が必要と考える、大量のデータからのモデルケースについて皆様で議論したい。データの管理についても自立を求められる傾向があり、研究費の維持は重要であるが、対案の検討も必要。

6. 日本学術会議協力学術研究団体への登録(紀藤)

- ・すでに去年度に申請完了しているが、日本学術会議から結果の報告は得られていない(日本学術会議協力学術研究団体ホームページでは既に登録されている様子はある)。当時の事務局(新潟)から申請しており、この案件が落ち着くまでは、ホームページ上の事務局は新潟に維持、結果が得られ次第、事務局を神奈川に移す予定。

7. 日本プロテオーム学会賞等受賞者(木下)

今年度の受賞者が、以下のように決定した。

(1) 学会賞

- ・小松節子(福井工業大学)

授賞題目「農学プロテオミクスの展開と環境ストレス耐性作物作出への応用」

- ・近藤格(国立がん研究センター)

授賞題目「プロテオーム解析によるがん個別化医療のためのバイオマーカー開発」

(2) 奨励賞

- ・岩崎未央(京都大学)

授賞題目「モリスシリカカラムを用いたプロテオミクス基盤技術の開発と多能性幹細胞解析への展開」

8. KHUPO との交換講演(小寺, 近藤)

- (1) 2020年～2021年について、報告があった。

2010年 KHUPO 山本 格, 木下英司

2010年 JHUPHO Ho Jeong Kwon (KHUPO 会長)

2011年 KHUPO 平野 久

2011年 JHUPHO Je Kyung Seong (Seoul National Univ), Kang-Sik Park (Kung Hee Univ)

2012年 KHUPO 山田 哲司

2012年 JHUPHO Kwang Pyo Kim (Konkuk University)

2013年 KHUPO 朝長 毅

2013年 JHUPHO KHUPO7名の HUPHO2013によるサポートで対応

2014年 KHUPO 近藤 格 (KHUPO 側からの推薦)

2014年 JHUPHO Byoung Chul Park (Korea Res. Inst. of Biosci. & Biotechnol.)

2015年 KHUPO 荒木令江

2015年 JHUPHO Bonghee Lee (Gachon University)

2016年 KHUPO 小松節子, 野呂 絵里花

2016年 JHUPHO Kwang Pyo Kim

2017年 KHUPO 服部成介, 野村文夫

2017年 JHUPHO Cheolju Lee

2018年 KHUPO 石濱泰

2018年 JHUPHO Jo-Yoel Cho

2019年 KHUPO 大槻純男, 太田信哉

2019年 JHUPHO Jinhwan Eugene Lee

2020年 KHUPO 奥田修二郎, 紀藤圭治, 松本雅記 (中止)

2020年 JHUPO 中止

2021年 AOHUPO (KHUPO 主催) 奥田修二郎, 紀藤圭治, 松本雅記

2021年 JHUPO Kim Youngsoo (Seoul National University College of Medicine)

9. 各担当理事からの報告

(1) 学会誌 (Proteome Letters) 編集活動 (大槻)

今年度の第一号が進行中, 7月中には発行できる予定。第二号は, 今年度受賞者の先生方にも執筆依頼予定。Proteome Letters の内容について学会ホームページの情報を更新した。また, Proteome Letters の和文総説を, 英語に翻訳し JPDM に掲載することを検討中。

(2) 学術企画活動 (荒木) (資料1)

第44回日本分子生物学会年会(12/1~12/3 おそらくハイブリッド)に JPrOS として申請を行い, ワークショップに採択された。

1日目: 12/1(水) 15:45~18:00

(1PW-13) プロテオミクスが解き明かす細胞内分子機構~初心者から専門家まで~
オーガナイザー(岩崎, 荒木)

(3) 教育活動 (肥後)

コロナウイルスの影響で On site での教育は難しいため, ホームページでの Webinar を考えている。内容については, 教育理事が検討するが, 幅広く意見をいただきたい。学会での教育活動になるため, 理事会での承認が必要であるが, すでにメールでの承認済み。お盆明けを目処に教育セミナー動画のアップロード実施予定。

(4) 国際活動 (近藤)

(5) 広報活動 (河野) (資料2)

学会で Webinar を進めることとなっているが, これらの情報を流すために, これまで連携を進めてきた団体等の連絡先をリスト化しており, 皆様からの追加や削除の意見があれば河野理事まで連絡をするように依頼があった。

10. 2019-2020 年度主催・後援・協賛実績

(1) 2021年3月19日: 第19回北里疾患プロテオーム大研究会の後援を行った。

【審議事項】

1. 2020年度収支決算報告および2021年度予算案（杉山）

2020年度の収支については60万円程度の赤字であった(赤字の主な要因は、2020年度の大会が新型コロナウイルスにより中止になったため)。幹事の先生による監査も終了している。2021年度の予算案について、収入については大会関係の収入、科研費の収入を計上している。支出について、大会費用、ホームページ動画掲載、科研費の支出を計上しており、今年度は80万円ほどの黒字を予定している。Web会議上での参加理事の挙手により承認が得られた。

【2020年度 一般会計収支決算書】

2020年4月1日～2021年3月31日

経常収益（収入）	1,585,112 円
《内訳》	
受取会費	1,310,000 円
（個人会員）	610,000 円
（法人会員）	700,000 円
事業収益（2020年大会 開催中止）	275,000 円
（受取参加料）	0 円
（受取広告料）	220,000 円
（受取展示料）	55,000 円
（受取懇親会費）	0 円
（ランチョンセミナー）	0 円
受取補助金等	0 円
雑収益	112 円
（受取利息）	112 円
経常費用（支出）	2,194,857 円
《内訳》	
事業費	979,572 円
（会議費）	0 円
（懇親会費）	0 円
（旅費交通費）	0 円
（通信運搬費）	0 円
（消耗品費）	0 円
（印刷製本費）	5,412 円
（賃借料）	500,400 円
（支払手数料）	12,760 円
（委託費）	461,000 円
（雑費）	0 円
管理費	1,215,285 円
（通信運搬費）	3,330 円
（消耗品費）	0 円
（印刷製本費）	522,595 円
（支払手数料）	77,160 円
（委託費）	612,200 円
（雑費）	0 円

2020年度 正味財産増減額；	△ 599,761 円
➢税引前一般正味財産増減額(経常収益 - 経常費用)；	△ 609,745 円
➢法人税、住民税及び事業税；	70,016 円 (法人住民税70,000円 + 利息税金16円)
➢指定正味財産増減額；	80,000 円 (2021年大会基金(受取寄付金))
正味財産合計(純資産)	11,018,575 円(2021年度繰越金)
➢2019年度 繰越金；	11,618,336 円
➢2020年度 正味財産増減額；	△ 599,761 円

【貸借対照表】

2021年3月31日現在


(資産の部)	
資産合計	11,274,803 円
流動資産	
現金預金	10,864,803 円
学会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (35543261)	9,898,053 円
2020年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (55997051)	531,410 円
2021年大会事務局 普通預金	
ゆうちょ銀行 (01404871)	515,340 円
(2021年大会基金(受取寄付金)80,000円含む)	
2021年大会 前払金	330,000 円
固定資産	
2021年大会基金(受取寄付金)	80,000 円
(負債の部)	
負債合計	256,228 円
未払費用(4月に支払う会計事務所費3月分)	27,500 円
前受会費	150,000 円
預り金(12~2月分の会計事務所報酬に対する源泉徴収)	8,728 円
未払法人税等	70,000 円

資産合計 — 負債合計 = 11,018,575 円 (正味財産合計)

令和2年度（2020年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和2年度(2020年度)の収支決算
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和元年 5月 12日

会計監査 高尾敏文 

会計監査 _____ 印

令和2年度（2020年度）会計監査報告書

日本プロテオーム学会の令和2年度(2020年度)の収支決算
について監査を実施した結果、正確であることを認めます。

令和3年 05月 27日

会計監査 小田吾哉 

会計監査 _____ 印

【令和3年度（2021年度）予算(案)】

収入	18,818,675 円
《 内訳 》	
2020年度繰越金	11,018,575 円
受取会費	
(個人会員)	600,000 円
(法人会員)	700,000 円
事業収益	
(2021年大会開催収入)	2,600,000 円
受取寄付金	0 円
受取助成金	3,900,000 円
雑収益	
(利息)	100 円
支出	18,818,675 円
《 内訳 》	
事業費	
(2021年大会開催経費)	1,350,000 円
管理費	
(通信運搬費)	10,000 円
(消耗品費)	10,000 円
(印刷製本費)	300,000 円
(賃借料：WebEX会議システム利用料)	0 円
(諸謝金)	30,000 円
(支払手数料)	60,000 円
(委託費)	
— Web運営維持管理費	250,000 円
— 会計事務	500,000 円
(雑費)	
— 学会賞、トラベルアワード関連	300,000 円
科学研究費助成事業費	3,900,000 円
税金	300,000 円
予備費（2021年度繰越金）	11,808,675 円

2. 2022年大会及び2023年大会(小寺)

年	開催地／大会長
2003	第1回 つくば／中西洋志
2004	第2回 東京／戸田年総
2005	第3回 横浜／平野 久
2006	第4回 東京／西村俊秀
2007	第5回 東京／磯邊俊明
2008	第6回 大阪／高尾敏文
2009	第7回 東京／前田忠計
2010	第8回 千葉／山田哲司
2011	第9回 新潟／山本 格
2012	第10回 東京／高橋信弘
2013	第11回(HUPOと合同) 横浜／平野 久
2014	第12回 つくば／成松 久
2015	第13回 熊本／荒木令江
2016	第14回 東京／服部成介
2017	第15回 大阪／朝長 毅 7/26-28, ホテル阪急エキスポパーク
2018	第16回 大阪／石濱 泰 (第66回質量分析総合討論会(日本質量分析学会の年次大会)と第9回AOHUPOとの合同大会) 2018.5.15-18, ホテル阪急エキスポパーク
2019	第17回 宮崎／榊原陽一, 松本雅記, 大槻純男 2019.7.24-27
2020	第18回 東京／紀藤圭治, 堂前直, 川村猛 (中止)
2021	第19回 徳島／小迫英尊
2022	
2023	

小寺理事長より、大会についての以下の意見についての承認依頼が出され、承認が得られた。

2022年度大会の大会については、小寺理事長を大会長として、北里大学、相模原キャンパスで開催(8月上旬)を考えており、2023年度大会は、新潟大学松本前理事が大会長を務めることを考えている。2022年度、2023年度を通して、理事会で大会を支える(大会長の負担を減らす、経費も削減する)体制を実現することを目標とする。例えば、庶務理事は大会実務や引き継ぎ等、監事理事はプラナリーレクチャーの企画、広報理事は大会スポンサーの獲得、会計理事は大会の会計、学術理事はプログラムの作成、国際理事は外国の方の演題プログラム等の検討、学術編集理事には要旨の編集、教育委員は教育講演、ホームページ等、そして今年度大会長の小迫理事にはアドバイスや日本蛋白質科学会との連携など、理事会全体の協力を期待している。8月中旬に、皆様と相談しながら大会委員などを決定し報告ができればと考えている。

質疑内容:

Q:2022年度大会は対面を想定しているのか?

A:対面を想定しているが、状況に応じて、ハイブリッドあるいはオンラインへの変更の可能性がある。

Q:大会長に内容等は一任すべき

A:大会長の意思が最優先であることは前提であり、理事会がそれをサポートできるシステムを構築したい。

Q:システムはどこまで自動化できているのか(要旨集, 参加登録, 入金)? 多くの人が関わるより一貫した自動化システム(事務作業の軽減)が必要と考えられる

A:一部できているが, 全部はできていない。一貫したシステムの構築が必要であることは同意見。
意見:今回用いられたコンフィットは非常にシステムが完成している(参加者の管理。大会ホームページやプログラムの編集, 一斉メール等)。金額についても, かなりリーズナブルであると考えられる。研究者などが作業をするのは無駄が多いと考えられる。

3. HUPO, KHUPO, AOHUPO について(小寺)

小寺理事長より, 理事会に対し, HUPO の会員になっていただき, 理事選挙にも積極的に参加していただきたい。また, HUPO でも AOHUPO の時と同様にプレゼンテーションアワードなどを設け積極的な参加を促したいとの理事会での承認依頼があり, 承認された。

4. 理事任期について(小寺)

次回の理事から任期を2年にすることを検討したいとの意見が出された。急ぎではないので引き続きの審議事項となった。

5. 名誉会員について(紀藤)

長年の大会貢献者については, 名誉会員として会費, 大会参加費を免除することが必要と考えている。執行部で推薦を行い理事会の承認を得るプロセスを進めたいと考えている。この方向性について理事会での承認依頼があり, 承認された。

6. 会計事務所との関係性について(杉山)

会計理事として, 現在の状況を維持することで問題がないとの意見が出され, 理事からの異論はなかった。

7. その他

特になし